

令和3年11月12日

報道機関 各位

昨年は大好評につき完売 「グラバー図譜カレンダー2022 ～ 長崎のうんまい魚めぐり」 昨年より数を増やして販売開始

長崎大学は、本学オリジナルの「グラバー図譜カレンダー2022 ～ 長崎のうんまい魚めぐり」を本日より販売しております。広く周知していただきますようお願いいたします。

トーマス・A・グラバーが遺した100年以上前の精緻な魚図×現代の超高精細な標本写真
×山口敦子教授（水産学部）の充実の解説

販売部数：限定1,000部 ※なくなり次第販売終了

規格：A5サイズ（縦21cm×横14.8cm）13枚、

ソフトケース入り

価格：1200円（税込み）

販売：長崎大学生協ほか、グラバー園、石丸文行堂、
長崎市歴史文化博物館、AMUドラゴン・シー など

※11月15日（月）以降に順次販売

その他：使用後は切り取ってハガキとして利用可能

「歴史から今を学び、今ある地球環境を守り未来へつなごう。」
「今あらためて海や魚を身近に感じてもらうことで、海の環境を維持し、地球全体の健康につなごう。」
「この魚たちが100年後にも食卓を彩っていてほしい。」
「魚食普及の一端を担いたい。」そんな思いで作成した長崎大学オリジナルカレンダーです。100年以上前の精緻な魚図、現代の超高精細な標本写真および充実した解説という3つの新しいコラボレーションによる『四季折々の長崎の美味しい魚たち』とともに一年をお過ごしください。



【カレンダーの内容に関する問い合わせ】

長崎大学水産学部/地域文化研究会

教授 山口 敦子 E-mail : y-atsuko@nagasaki-u.ac.jp

【その他の問い合わせ先】

長崎大学附属図書館 TEL : 095-819-2193 E-mail : libsoumu@ml.nagasaki-u.ac.jp

【一般販売に関する問い合わせ先】

長崎大学生協 文教店 TEL : 095-819-2824

有限会社鳴滝（生協以外）TEL : 095-847-1525 FAX : 095-846-7921 E-mail : soumu02@narutaki.co.jp

日本西部及び南部魚類図譜(通称:グラバー図譜)

明治末から昭和初期にかけて、米国で生物学を学んだ経験をもつ倉場富三郎(トーマス・A・グラバー)が長崎在住の5人の画家を雇い、画家たちに形態や色彩などを正確に描写させ、25年かけて作成・編纂した魚類図鑑。全32集(806図)からなる。各図譜には、富三郎が研究したうえで決定した学名が、地方名とともに記録され、学術・美術画として、また歴史・文化的な価値も備えた貴重な資料となっている。

倉場富三郎(トーマス・A・グラバー)とは

富三郎は1871年に長崎市に生まれた。父はスコットランド出身の貿易商トーマス・B・グラバー、母は淡路屋ツルである。後にホームリンガー商会の社員になり、イギリスからトロール漁船を購入すると五島沖での操業に成功する。これが日本のトロール漁業の始まりとなり、水産県長崎へ、水産国日本へと躍進させた。富三郎はグローバルな視野を持ちながら、地域に多大な貢献をした。しかし、終戦後の1945年8月26日、自ら命を絶つ。遺言により図譜は、たった一度会っただけの東京の渋沢敬三(当時は第一銀行副頭取)に託された。渋沢は思案した後長崎に戻すことを決心し、1950年に長崎大学に寄贈され、再び長崎の地に戻った。現在は長崎大学附属図書館の貴重図書室に保管されている。

歴史から今を学び、未来へ「つなぐ」ために

富三郎による図譜の作成から約100年が経過した現在、私たちは研究の傍ら、グラバー図譜に掲載された魚類を採集、標本を作製し、データベースに登録するとともに、必要に応じて図譜の魚種名をあらためている。この活動の過程で、富三郎が私財を投じてまで図譜を作成した思い、あれほど尽くした長崎ではなく東京に図譜を寄贈した理由について興味を抱くようになり、その時代背景とともに紐解いている。歴史を学ぶことで今を知り、今を生きる私たちが未来を創ることに気づく。今ある地球環境を守り未来へつなぐため、研究を通じて貢献したい。

「プラネタリーヘルス」への貢献

このたびは、長崎の四季折々の美味しい魚12種とカニ1種をグラバー図譜より選び、時を越えて現在採集した標本写真を添えて2022年のカレンダーを作成した。採集には困難を極めた種もあった。かつては普通にみられたものにも、静かに絶滅の恐れが迫っているのかもしれない。私たち人間は「地球生態系」の構成要素の一部であり、自然環境や様々な生物とは相互に切っても切れない複雑な「つながり」で維持されている。今あらためて魚や海を身近に感じてもらうことが、海の自然環境を維持し、地球全体の健康を守る「プラネタリーヘルス」を実現するための第一歩である。全脊椎動物の約半分の種数を占める一大グループであり、地球上のあらゆる水圏に生息する多様でユニークな魚たちが100年先にも食卓を彩ってくれることを願ってやまない。また魚離れが進む現代の魚食普及の一端を担うことができれば嬉しい。

このカレンダー作成は、長崎大学地域文化研究会の活動の一環として2020年にスタートし、今年度も増崎英明名誉教授(現:佐世保市総合医療センター理事長・院長)、安武敦子教授(工学部)、古満啓介研究員(水産学部)とともにいった。また、長崎大学附属図書館の浜田久之館長をはじめ職員の方々のサポートに感謝したい。



2021年10月10日 長崎大学 地域文化研究会/水産学部 教授 山口敦子

山口敦子 博士(農学)/Prof. Atsuko Yamaguchi, PhD

専門は魚類学・水産資源学。

日本や世界の海に出かけ、地域の漁業者とともに船に乗り、フィールド調査を行う研究スタイル。魚の分類、繁殖や行動などの生態、海の生態系機能、温暖化による環境や魚類への影響評価など、様々な視点で研究を行う。

専門家として社会貢献活動も行っている。現在、環境省の有明海・八代海等総合調査評価委員会、絶滅のおそれのある海洋生物の選定・評価検討会、水産庁の水産政策審議会、地球環境小委員会、瀬戸内海広域漁業調整委員会、国土交通省の有明・八代海域環境検討委員会・環境再生技術等検討委員会、長崎県の環境審議会、環境影響評価委員会、漁港管理会、地方港湾審議会、佐賀県の環境放射能技術会議など、国や地方自治体の委員会委員として、学術的・専門的な見地から検討を行っている。国外では、IUCN(国際自然保護連合)のShark Specialist Group(SSG)の北西太平洋海区・共同議長としての活動の後、アジア海区代表委員として選任され、世界の軟骨魚類の絶滅の恐れの評価や、保全行動計画の策定などをグローバルな視点で行っている。



①グラバー図譜「トラフグ」
②グラバー一家
(左上が富三郎、前列右が父のグラバー)
③倉場富三郎



①トラフグの生態を研究中
②グラバー図譜原画の撮影風景
(長崎大学附属図書館・貴重図書室にて)
③標本の鱗立てをする古満啓介博士



有明海産コシロの刺身(筆者作)

